CC BY

保健医療科学　2026　Vol.75 No4 p.403－408

＜論壇＞

歯科領域における加熱式たばこに関するナラティブレビュー

田野ルミ[1)]，小島美樹[2)]，小川祐司[3)]，大久保光[4)]，埴岡隆[5)]，
谷口奈央[6)]，尾﨑哲則[7)]，細見環[8)]

[1)] 国立保健医療科学院生涯健康研究部
[2)] 梅花女子大学看護保健学部口腔保健学科
[3)] 新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔健康科学講座
[4)] 新潟大学医歯学総合病院予防歯科
[5)] 宝塚医療大学保健医療学部口腔保健学科
[6)] 福岡歯科大学口腔保健学講座口腔健康科学分野
[7)] 日本大学
[8)] 関西女子短期大学歯科衛生学科

A Narrative Review of Heated Tobacco Products in Dentistry

TANO Rumi[1)], OJIMA Miki[2)], OGAWA Hiroshi[3)], OKUBO Hikaru[4)], HANIOKA Takashi[5)],
TANIGUCHI Nao[6)], OZAKI Tetsunori[7)], HOSOMI Tamaki[8)]

[1)] Department of Health Promotion, National Institute of Public Health
[2)] Department of Oral Health Sciences, Faculty of Nursing and Health Care, Baika Women's University
[3)] Department of Oral Health Science, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences
[4)] Department of Preventive Dentistry, Niigata University Medical and Dental Hospital
[5)] Department of Oral Health Sciences, Faculty of Health Care Sciences, Takarazuka University of Medical and Health Care
[6)] Department of Preventive and Public Health Dentistry, Fukuoka Dental College
[7)] Nihon University
[8)] Kansai Women's College Department of Dental Health

抄録

わが国の主要なたばこ製品は紙巻たばこだったが，2014年の流行以降，加熱式たばこの消費が拡大している．いずれも口腔を介して使用されるため，能動喫煙と受動喫煙において直接的に曝露される歯と口腔への健康影響は幅広く，大きい．本研究は，日本のたばこ対策についての検討に寄与することを目的とした，歯科領域における加熱式たばこに関するナラティブレビューである．加熱式たばこに関する学会等の動向や研究報告は，2010年から2025年までの，報告書，各学会のホームページ，論文，新聞記事等から収集した．資料を整理した結果，日本における加熱式たばこの登場を受けて，歯科医師向け新聞や情報サイトにおいてたばこ産業による加熱式たばこの広告や学会発表や展示のプロモーション活動がみられた．併せて，加熱式たばこが歯科領域に及ぼす影響について，たばこ産業による研究報告が先行した．今後，加熱式たばこに係る状況を踏まえたたばこ対策に向けて，歯科における加熱式たばこの長期的な健康リスクを明らかにすることが課題である．

キーワード：加熱式たばこ，歯科，公衆衛生

連絡先: 田野ルミ
〒351-0197 埼玉県和光市南2-3-6
2-3-6, Minami, Wako-shi, Saitama, 351-0197, Japan
E-mail:tano.r.aa@niph.go.jp
[令和8年5月7日受理]

Abstract

Conventional cigarettes were the dominant tobacco product in Japan, but the consumption of heated tobacco products has expanded since their market launch in 2014. Both products are used through the mouth, with wide-ranging significant health impacts on the teeth and oral cavity due to direct exposure. This study is a narrative review of heated tobacco products in the dental field, with the aim of contributing to the discussion on tobacco control measures in Japan. Trends and research results from academic societies and other organizations regarding heated tobacco products were collected from reports, websites of respective academic societies, academic papers, newspaper articles, etc. from 2010 to 2025. Following the emergence of heated tobacco products in Japan, the tobacco industry began advertising heated tobacco products in newspapers and information sites targeting dentists and promoted them through academic presentations and exhibitions. At the same time, the tobacco industry published research reports about the impact of heated tobacco products on the dental field. Going forward, to develop tobacco control measures that consider the current position of heated tobacco products, it will be necessary to clarify the long-term health risks of heated tobacco products on dentistry.

keywords: heated tobacco, dentistry, public health

(accepted for publication, May 7, 2026)

I. はじめに

喫煙は口腔を介して行われるため，歯科領域へ直接的に影響し，歯科疾患のほか歯科治療の予後にも及ぶ．米国公衆衛生総監報告書の基準によると，能動喫煙は，歯周病と口腔・咽頭がんが「因果関係を推定するのに十分（レベル 1）」であり，う蝕，歯の喪失およびインプラント治療の失敗が「因果関係を示唆しているが十分ではない（レベル 2）」といわれ[1]，受動喫煙は，子どものう蝕がレベル 2，妊婦の能動喫煙と口唇口蓋裂の因果関係はレベル 1 と判定されている[2].

世界保健機関（World Health Organization; WHO）は，たばこの消費等が健康に及ぼす悪影響から現在および将来の世代を保護することを目的として「たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約」（WHO Framework Convention on Tobacco Control; FCTC）を 2005 年に発効した．日本は 2004 年に批准しているが，FCTCで求められている内容に対して十分な状況とはいえず，とりわけ，FCTC第 13 条のたばこ製品に関する広告，販売促進および後援の規制について対応できていない[3]．また，2000 年からの健康日本 21（第一次）以降，健康増進法の改正をはじめとするさまざまなたばこ規制と対策が実施されているが，健康日本 21（第二次）で設定した目標「成人喫煙率 12%（2022 年）」は未達であり，健康日本 21（第三次）も同じ目標値を掲げた．

こうしたなか，加熱式たばこが 2014 年以降に日本で流行し，その後国内で消費が拡大している．健康増進法の一部を改正する法律においては，加熱式たばこは紙巻たばことは異なる分類のうえで 2020 年に全面施行された [4]．今後，加熱式たばこに係る状況を踏まえたたばこ対策に向けて，加熱式たばこの曝露を直接受ける歯・口腔における公衆衛生上の検討が必要である．

本稿では，加熱式たばこに焦点をあて，国内を中心とした歯科領域における学会等の主な動きや研究報告を概説する．加熱式たばこに関する学会等の動向や研究報告は，報告書，各学会のホームページ，論文，新聞記事等から収集し，ナラティブレビューを行った．文献は，2010 年から 2025 年までの期間について，PubMed，医中誌，厚生労働科学研究成果，新聞記事等のデータベースを用いて，「歯科/口腔」「加熱式たばこ」等の用語で検索した．文献や資料等の選択・除外基準は，たばこ産業による論文等を含め，学会発表等の抄録は除いた．

II. 加熱式たばこの特性と使用実態

たばこ葉を燃焼して煙を吸う紙巻たばこに対して，加熱式たばこは専用の器具にたばこ葉やその加工品を装着して電気で加熱し，発生するエアロゾルを吸引する．加熱式たばこと併せて「新型たばこ」と呼ばれる電子たばこは，たばこの葉を使用せず，グリコール類を主成分に香料や添加物を加えた液体を加熱してエアロゾルを吸引する．電子たばこは海外で広く流通しているが[5]，日本国内ではニコチンを含有する電子たばこの販売を，医薬品医療機器等法で規制している．

加熱式たばこのエアロゾルには，紙巻たばこの煙と同じようにニコチンや発がん物質などの有害成分が含まれている[6]．加熱式たばこのエアロゾルのニコチン濃度は製品によって異なるが，紙巻たばこの主流煙と比較して同程度かやや低く[7]，有害成分によっては，紙巻たばこより高濃度の物質が加熱式たばこに含まれることも明らかになっている[8-9]．また，加熱式たばこの使用者が吐き出す呼気（呼出エアロゾル）に有害成分が含まれていることが報告されている[10].

2024 年の国民健康・栄養調査の結果によると，喫煙

率は 14.8％（男性 24.5％，女性 6.5％）で[11]，2013 年の同調査の結果で示されている 19.3％と比較して減少しているが，先進諸国のなかでまだ高い水準にある．喫煙者が使用しているたばこ製品の種類は，紙巻たばこが男性 65.4％，女性 60.0％であり，加熱式たばこは男性 41.4％，女性 44.2％である．加熱式たばこ使用の調査を開始した 2018 年は，喫煙者全体の 20.3％（男性 22.1％，女性 14.8％）であったことから，加熱式たばこ使用者の増加がわかる．国内の販売本数でみても，2020 年には加熱式たばこは紙巻きたばこの半数に満たなかったが，2023年には67％までになっている[12].

III. 歯科における加熱式たばこに関する学会等の動き

加熱式たばこの実態が世界的にも未知である状況下，WHOは 2018 年 5 月に，加熱式たばこも紙巻たばこと同様に対策すべきだとする情報を提供した[13]．一方わが国では，同年 7 月の改正健康増進法の公布時，受動喫煙防止対策が強化されるなかでも加熱式たばこの健康被害が明らかでないとして，加熱式たばこは「指定たばこ」に位置づけられた[4]．日本公衆衛生学会たばこ対策委員会は，2020 年に「健康影響が解明されるまでは，公衆衛生の予防原則の観点から紙巻たばこと同様の規制を行うべきである」との政策提言を行った[13]．加熱式たばこに対する声明を出した日本禁煙推進医師歯科医師連盟は見解のひとつに，たばこ葉を使用した加熱式たばこと，たばこ葉を使用しない電子たばこを混同して論じるべきではないと言及している[14].

わが国の歯科界では表 1 に示すように，改正健康増進法の施行後，歯科医師向け新聞や情報サイトにおいてたばこ産業による加熱式たばこの広告や学会発表・展示のプロモーション活動がみられた[15-16]．たばこ産業から歯科へのアプローチを受け，日本歯周病学会は，たばこ産業が実施した加熱式たばこの健康影響に関する歯周病の臨床研究には問題点があると指摘した[17]．続けて歯学系学会は合同で，加熱式たばこには多くの有害化学物質が含まれ，紙巻たばこと比較して加熱式たばこの健康影響が少ないかは明らかではないことをはじめとした注意喚起を行った[18]．さらに，医・歯学系の学術団体の連合体（禁煙推進学術ネットワーク）は，2024年に「加熱式タバコに関する見解及び要望」を提示した[19]．この文書で，FCTCは加熱式たばこも紙巻たばこと同様の規制とすべきとしていることを挙げ[20]，国際基準に沿った加熱式たばこの規制を要望している．

IV. 歯科領域における加熱式たばこに関する知見

歯科領域における加熱式たばこの影響に関する報告は，たばこ産業が実施する基礎研究が先行し[22-25]，歯科用レジン修復物や歯肉上皮培養モデル，ウシエナメル質等を用いて，加熱式たばこのエアロゾルと，紙巻たばこの煙等の曝露による歯の色調や組織・細胞への影響を評価し，比較検討した実験結果が中心である．そして，2017 年から 2022 年までのたばこ産業による研究の半数以上は，独立した研究機関と比べて，加熱式たばこが紙巻たばこよりも望ましいと結論付けている [26]．2020年頃になると大学等の研究機関の報告もみられ，疫学研究を含むエビデンスが集積されつつある．例えば，インプラント材料であるチタンを用いて，マウスの線維芽細胞の創傷治癒に対して加熱式たばこエアロゾル曝露が傷害とな

表1　日本における加熱式たばこに係る歯科の主な動向

年	月	内容
2013	12	日本で加熱式たばこが発売
2014	-	加熱式たばこの広告が日本の新聞に初めて掲載
2017	10	日本禁煙推進医師歯科医師連盟 「加熱式タバコに対する運営委員会緊急声明（改訂版）」
2018	-	国民健康・栄養調査「生活習慣調査」の喫煙状況に「たばこ製品の種類」を設定
	7	健康増進法の一部を改正する法律が成立 加熱式たばこが「指定たばこ」に分類
2020	4	健康増進法の一部を改正する法律の全面施行
2021	9	たばこ産業 歯科医師向け新聞で広告活動「歯科医師の視点から　加熱式たばこの評価」
	11	日本歯周病学会 「新型タバコ（加熱式タバコ）に関する見解」
2022	1	脱タバコ社会実現 歯科研究ネットワーク　口腔9学会合同脱タバコ社会実現委員会 「新型タバコ、特に加熱式タバコに関する注意喚起」
	6	たばこ関連企業 歯科医師情報サイトでPRレポート「加熱式たばこは喫煙者の口腔衛生の改善に寄与できるか」
	9	日本歯周病学会 「新型タバコ（加熱式タバコ）に関する見解2」

報告「加熱式タバコの毒性を知り科学的根拠に基づく施策の実現を」日本学術会議. 2023年9月 [21]をもとに作成

る[27]，唾液分泌量は加熱式たばこ使用者で非喫煙者よりも低く，唾液の自然免疫成分に与える悪影響が示唆される[28]，紙巻たばこおよび加熱式たばこ等の使用者において，非喫煙者と比較して口腔粘膜の細胞毒性および遺伝毒性の損傷が増加している[29]，非喫煙者と比較して加熱式たばこ使用者は自己申告による歯周病の有病率と関連している[30]，加熱式たばこ使用者が不健康な食生活を好む傾向には，味覚の変化が関与している可能性がある[31]ことが示されている．

以上より，歯科における加熱式たばこの口腔の健康に関するエビデンスが明らかになってきているものの，研究デザインが限定的であるとともに，研究の質に影響し得るたばこ産業関与によるバイアスがみられる調査研究が少なくないことがわかった．

V．加熱式たばこ対策に向けた歯科領域の課題

今回の歯科領域におけるナラティブレビューの結果，加熱式たばこは市場に登場して日が浅く，短期的影響のエビデンスに比して，長期的な臨床研究や疫学情報の蓄積が依然として不足していた．加熱式たばこの特性や使用実態，歯科領域における加熱式たばこに関する報告をもとに，今後のたばこ対策に向け，歯・口腔に対する健康リスクを明らかにすることが課題である．紙巻たばこの健康影響が確立し，電子たばこについて口腔への健康影響の知見が蓄積されているように[32]，加熱式たばこの長期的な健康被害を科学的に明らかにしていくには，中立的な立場での調査研究が求められる．特に，2021年に国際歯科連盟（Fédération dentaire internationale; FDI）がたばこの使用を中止し，たばこ対策の推進を目的としたポリシーステートメント [33]を重要視した，加熱式たばこに関する調査とその評価が求められる．

さらに，多分野で取り組むたばこ対策の推進のために，地域歯科保健活動や歯科臨床の場でも，加熱式たばこの使用状況を把握し，歯科の視点を入れた禁煙支援の展開が重要である．また，2020年より禁煙治療の対象に加熱式たばこ使用者も加わったことから，必要に応じて歯科が禁煙外来との連携を強化することで，喫煙対策の促進につながると考える．

利益相反

開示すべきCOIはありません

引用文献

[1] 厚生労働省.「喫煙と健康 喫煙の健康影響に関する検討会報告書」について．Ministry of Health, Labour and Welfare, Government of Japan. [“Kitsuen to kenko: Kitsuen no kenko eikyo ni kansuru kentokai hokokusho” ni tsuite.] http://www.mhlw. go.jp/stf/shingi2/0000135586.html (in Japanese)(accessed 2026-02-25)

[2] US Department of Health and Human Services: Dental disease. In: The Health Consequences of Smoking—50 Years of Progress, A Report of the Surgeon General, US Department of Health and Human Services, Rockville, MD, 2014.

[3] 外務省. たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約　Ministry of Foreign Affairs of Japan [WHO Framework Convention on Tobacco Control : FCTC]　https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/who/fctc.html (in Japanese) (accessed 2026-02-25)

[4] 厚生労働省. 受動喫煙対策. [Ministry of Health, Labour and Welfare. Judo kitsuen taisaku] https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000189195.html (in Japanese)(accessed 2026-02-25)

[5] Drope, Jeffrey and Schluger, Neil W, edited. The tobacco atlas 6th ed. Atlanta: American Cancer Society. 2018　https://theunion.org/sites/default/files/2020-12/TobaccoAtlas_6thEdition_LoRes.pdf(accessed 2026-02-25)

[6] Simonavicius E, McNeill A, Shahab L, Brose LS. Heat-not-burn tobacco products: a systematic literature review. Tobacco Control. 2019;28(5):582-594. doi: 10.1136/tobaccocontrol-2018-054419

[7] Jankowski M, Brożek GM, Lawson J, Skoczyński S, Majek P, Zejda JE. New ideas, old problems? Heated tobacco products - a systematic review. Int J Occup Med Environ Health. 2019;32(5):595-634. doi: 10.13075/ijomeh.1896.01433

[8] Uchiyama S, Noguchi M, Takagi N, Hayashida H, Inaba Y, Ogura H, Kunugita N. Simple Determination of Gaseous and Particulate Compounds Generated from Heated Tobacco Products. Chemical research in toxicology. 2018;31(7):585-593.doi: 10.1021/acs.chemrestox.8b00024

[9] Elias J, Dutra LM, St Helen G, Ling PM. Revolution or redux? Assessing IQOS through a precursor product. Tobacco Control. 2018;27:s102-s110.doi: 10.1136/tobaccocontrol-2018-054327

[10] Ruprecht A, De Marco C, Saffari A, Pozzi P, Mazza R, Veronese C, et al. Environmental pollution and emission factors of electronic cigarettes, heat-not-burn tobacco products, and conventional cigarettes. Aerosol Science and Technology. 51:674–684, 2017. https://doi.org/10.1080/02786826.2017.1300231

[11] 厚生労働省. 令和6年国民健康・栄養調査結果の概要. [Ministry of Health, Labour and Welfare. Reiwa 6nen kokumin kenko/eiyo chosa kekka no gaiyo.]　https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001603146.pdf (in Japanese) (accessed 2026-02-25)

[12] 健康・体力づくり事業財団. たばこに関する統計.[Japan Health Promotion and Fitness Foundation, Tabako ni kansuru tokei.]　https://www.health-net.or.jp/

tobacco/statistics/hanbai_honsu_kanetsu.html (in Japanese) (accessed 2026-02-25)

[13] 中村正和, 田淵貴大, 尾崎米厚, 大和浩, 欅田尚樹, 吉見逸郎, 他. 加熱式たばこ製品の使用実態，健康影響，たばこ規制への影響とそれを踏まえた政策提言. 日本公衆衛生雑誌. 2020;67(1):3-14. Nakamura M, Tabuchi T, Osaki Y, Yamato H, Kunugita N, Yoshimi I, et al. [Policy recommendation for the regulation of heated tobacco products based on evidence review of their health effects and influence on tobacco control.] Nihon Koshu Eisei Zasshi 2020;67(1):3-14. (in Japanese)

[14] 日本禁煙推進医師歯科医師連盟. 加熱式タバコに対する運営委員会緊急声明(改訂版) 平成 29 年 10 月 16 日 [Japan Medical-Dental Association for Tobacco Control. Kanetsushiki tabako ni taisuru un'eiiinkai kinkyu seimei (kaiteiban)] 2017-10-16 https://www.nosmoke-med.org/673 (in Japanese)(accessed 2026-02-25)

[15] フィリップ モリス ジャパン. 歯科医師の視点からみた加熱式たばこの評価. [Philip Morris Japan. Shika ishi no shiten kara mita kanetsushiki tabako no hyoka] https://www.whitecross.co.jp/articles/view/2057 (in Japanese)(accessed 2026-02-25)

[16] フィリップ モリス. 加熱式たばこは喫煙者の口腔衛生の改善に寄与できるか. 2022 [Philip Morris. Kanetsushiki tabako wa kitsuensha no koku eisei no kaizen ni kiyo dekiruka] https://www.pmj-science.com/topics/topics16/ (in Japanese)(accessed 2026-02-25)

[17] 日本歯周病学会. 新型タバコ(加熱式タバコ)に関する見解 2. [Japanese Society of Periodontology. Shingata tabako (kanetsushiki tabako) in kansuru kenkai 2] https://www.perio.jp/file/news/info_211109.pdf (in Japanese)(accessed 2026-02-25)

[18] 脱タバコ社会実現歯科研究ネットワーク. 新型タバコ，特に加熱式タバコに関する見解 2023 年 12 月 11 日 [Tobacco-Free Dental-Research Committee. Shingata tabako tokuni kanetsushiki tabako ni kansuru kenkai] 2023-12-11 https://www.jamfi.net/tfdrc/statement.html (in Japanese)(accessed 2026-02-25)

[19] 禁煙推進学術ネットワーク. 加熱式タバコに関する見解及び要望. 2024 年 5 月 31 日 [Tobacco Control Medical-Dental Research Network. Kanetsushiki tabako ni kansuru kenkai oyobi yobo] 2024-5-31 (in Japanese) (accessed 2026-02-25)

[20] World Health Organization. WHO statement on heated tobacco products and the US FDA decision regarding IQOS. 2020. https://www.who.int/news-room/detail/27-07-2020-who-statement-on-heated-tobacco-products-and-the-us-fda-decision-regarding-iqos (accessed 2026-02-25)

[21] 日本学術会議. 加熱式タバコの毒性を知り科学的根拠に基づく施策の実現を: 報告. 2023. Science Council of Japan. [Kanetsushiki tabako no dokusei o shiri kagakuteki Konkyo ni motozuku shisaku no jitsugen o : hokoku] 2023. https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-25-h230926-2.pdf (in Japanese)(accessed 2026-02-25)

[22] Zhao X, Zanetti F, Majeed S, Pan J, Malmstrom H, Peitsch MC, et al. Effects of cigarette smoking on color stability of dental resin composites. American journal of dentistry. 2017;30(6):316-322.

[23] Zanetti F, Titz B, Sewer A, Lo Sasso G, Scotti E, Schlage WK, et al. Comparative systems toxicology analysis of cigarette smoke and aerosol from a candidate modified risk tobacco product in organotypic human gingival epithelial cultures: A 3-day repeated exposure study. Food and Chemical Toxicology. 2017; 101:15-35. doi: 10.1016/j.fct.2016.12.027

[24] Zanetti F, Sewer A, Scotti E, Titz B, Schlage WK, Leroy P, et al. Assessment of the impact of aerosol from a potential modified risk tobacco product compared with cigarette smoke on human organotypic oral epithelial cultures under different exposure regimens. Food and Chemical Toxicology. 2018; 115:148-169. doi: 10.1016/j.fct.2018.02.062

[25] Dalrymple A, Bean EJ, Badrock TC, Weidman RA, Thissen J, Coburn S, et al. Enamel staining with e-cigarettes, tobacco heating products and modern oral nicotine products compared with cigarettes and snus: An in vitro study. American journal of dentistry. 2021;34(1):3-9.

[26] Suzuki H, Aono N, Zhang Y, Yuri K, Bassole Epse Brou MAM, Takemura S, et al. Comparison of Publications on Heated Tobacco Products With Conventional Cigarettes and Implied Desirability of the Products According to Tobacco Industry Affiliation: A Systematic Review. Nicotine and Tobacco Research. 2024;26(5):520-526. doi: 10.1093/ntr/ntad205

[27] Morishita Y, Hasegawa S, Koie S, Nakaya S, Goto M, Miyachi H, et al. Effects of heated tobacco products and conventional cigarettes on dental implant wound healing: experimental research. Annals of Medicine & Surgery. 2023; 85(5):1366-1370. doi: 10.1097/MS9.0000000000000367

[28] Mori Y, Tanaka M, Kozai H, Aoyama Y, Shigeno Y, Hotta K, et al. Effects of Heat-Not-Burn Cigarette Smoking on the Secretion of Saliva and Its Innate Immune System Components. Healthcare (Basel, Switzerland). 2022; 11(1):132. doi: 10.3390/healthcare11010132

[29] Tadin A, Stazic V, Galic N, Zeljezic D. Evaluation of Cytotoxic and Genotoxic Effects in Buccal Mucosal Cells in Non-Smokers and Users of Traditional Combustible Tobacco Products and Non-Combustible Alternatives. Journal of xenobiotics. 2024; 14(1):154-165. doi: 10.3390/jox14010009

[30] Yoshioka T, Tabuchi T. Combustible cigarettes, heated tobacco products, combined product use, and periodontal

disease: A cross-sectional JASTIS study. PloS one. 2021; 16(3): e0248989. doi: 10.1371/journal.pone.0248989

[31] Miyoshi K, Kimura Y, Nakahata M, Miyawaki T. Foods and beverages associated with smoking craving in heated tobacco product and cigarette smokers: A cross-sectional study. Tobacco induced diseases. 2024; 22. doi: 10.18332/tid/175623

[32] Holliday R, Chaffee BW, Jakubovics NS, Kist R, Preshaw PM. Electronic Cigarettes and Oral Health. Journal of dental research. 2021;100(9):906-913. doi: 10.1177/00220345211002116

[33] FDI World Dental Federation. FDI policy statement-the role of oral health practitioners in tobacco cessation. adopted by the FDI General assembly: 27-29 September 2021, Sydney, Australia. Available: https://www.fdiworlddental.org/role-oral-health-practitioners-tobacco-cessation (accessed 2026-02-25)